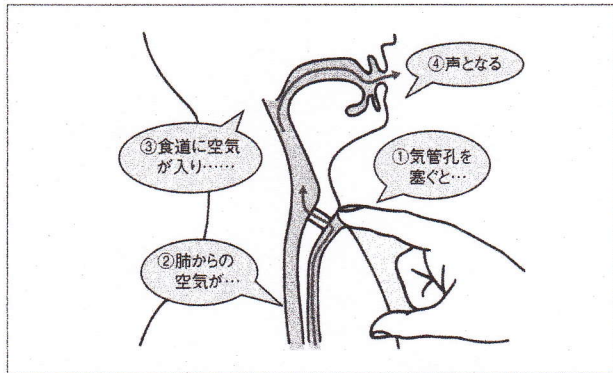
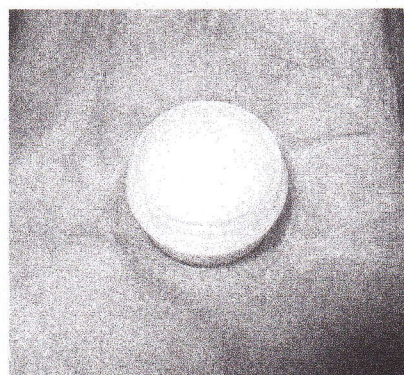


■気道気管シャント法で声が出るしくみ



とほめられても、世間ではまるで通用せず、満足な会話はできなかつたのです」
失意のなかにあるとき、患者



上写真)永久気管孔から見た気道食道シャント部。奥に見える穴の部分が、ヴォイスプロテゼの「プロヴォックス」。留置する手術では、麻酔下で口から内視鏡で観察して行う。手術時間は15分ほど。下写真)永久気管孔をHMEカセットで蓋をしたところ。HMEカセットを上から指で押すと、気道がふさがれるため、肺の空気が食道に送られ発声できる

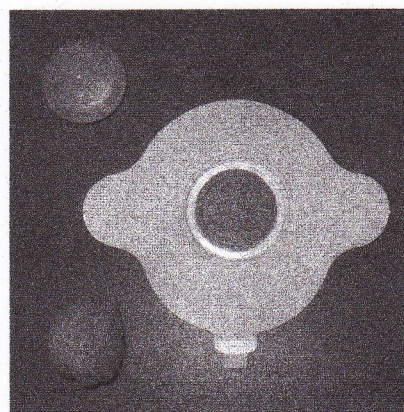
帰国後、さつそくシャント法についてインターネットで調べた土田さん。日本でこの方法に取り組んでいる医師を探し出し、訪ねていきました。
ヨーロッパで主に採用され、日本でも使われているヴォイスプロテゼは、「プロヴォックス」という商品名の機器です。

つけた翌日から
会話ができた

会の海外研修旅行でロンドンに行く機会がありました。
「ロンドンで、同じ喉頭全摘患者とお会いしましたが、みなさん上手にしゃべっている。聞くとシャント法で発声しているというのですが、はてこれは、一体何だろうと思いました」

「プロヴォックスをつけたら、翌日から会話ができるようになりました。食道発声だと『こんにちは』といえれば上等でした。でも、シャント法なら『こんにちは』。私は土田義男と申します。どうぞよろしく」と、楽に息でいえます。人とおしゃべりができるようになったのが何より嬉しいし、カラオケも楽しめま

プロヴォックスは、気管と食道の間に設けた小さな孔にセツトするシリコン製のチューブです。これによって、気管から食道につながる空気の通り道がで



交換が必要な消耗器具。左がHMEカセット。右がアドヒーシブ。「アドヒーシブ」は、HMEカセットを取り付けるためのシールで、気管孔に合わせて貼ります。さらに「HMEカセット」という人工鼻本体をとりつけます。ボタンを押すと気管孔が閉じる仕組みになっています。もともとHMEカセットは「人工鼻」としての役割を持っています。喉頭を摘出すると気管と鼻は分離され、鼻呼吸ができなくなります。つまり、防塵、加温、加湿という鼻機能が損なわれてしまうため、これらの機能を代替する目的で取り付けるのがHMEカセット。喉頭摘出者に必須の機器です

器具の交換が欠かせず
費用は月2万円

プロヴォックスを装着する手術は保険が適用されていて、入院費も含め3割負担で13万円前後。高額療養費制度でさらに安く抑えられます。

問題は日々の手入れが欠かせず、そのための費用がかかること。

プロヴォックス自体は3か月に1回程度の交換が必要で、保険が適用されるものの交換費用は1万2千円ほど。定期的に交換が必要な肺や気管を保護する人工鼻HMEの購入費は保険適用にならず、全額自己負担で毎月2万円前後かかります。